

平成 30 年度タンチョウ傷病個体収容結果

表 2 平成 12～30 年度タンチョウ傷病個体収容結果（平成 31 年 3 月 31 日時点）

年度 (平成)	(件)													(羽)			
	交通事故	列車事故	電線衝突	不明衝突	スラリー 等	フェンス 等	他事故	栄養不 良・衰弱	疾病	中毒	同種闘争	捕食・襲 撃	その他	不明	死体	生体	収容個体数
12	8	2	5	1				4			1			1	14	5	19
13	3	1	4	3			2	1		1			2	6	15	7	22
14	4	4	14	3		1		2		2	3	1	2	1	22	12	34
15	2	3	10	3	1	4	1			1				3	18	10	28
16	2		12		1	1			1			1	1		8	10	18
17	3	3	11	3	2	2	1	1	1		2	1		4	16	12	28
18	3	4	6	3	2	1	1	1			1	1	1		12	9	21
19	5	2	10	1	1	2	3	2	1	2	1	2		6	24	11	35
20	6	4	12			3	3	1			1		2	2	18	13	31
21	4	2	6	3	3	1	1	2			4	2	1	2	15	13	28
22	2	6	5	2	2	2		5	1			1		5	17	8	25
23	6	2	5	3		1	1	1			1	1		1	11	10	21
24	4	7	5	1	3	1		2	1		1	1			14	11	25
25	5	2	6	5	1	1	3	3	6		2	1	1	2	19	11	30
26	10	2	6		1	2	2	2	1		2				12	12	24
27	3	7	8	5	2	2		2			2		3	4	17	16	34
28	8	2	3	4	2	1					2		3	7	22	10	32
29	13	1	11	3	1	1	1	3		2	1	1	1	2	26	11	37
30	7	6	3	6		6		4	1			1	2	3	23	10	33
計	98	60	142	49	22	32	19	36	13	8	24	14	19	49	323	201	525

※ 1 表中のデータは原因分析のためのデータが比較的そろっている平成 12 年度からとした。

※ 2 各原因別の収容件数の合計が収容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる収容個体があるため。

平成 12 年度：栄養不良と不明衝突が 1 羽、同種闘争と栄養不良が 1 羽、電線衝突と栄養不良が 1 羽

平成 13 年度：不明衝突とその他が 1 羽

平成 14 年度：他事故と栄養不良が 2 羽、電線衝突と交通事故が 1 羽

平成 16 年度：電線衝突と疾病が 1 羽

平成 17 年度：不明衝突と疾病、フェンス等と栄養不良、他事故とスラリー、電線衝突と交通事故、不明衝突と同種闘争、電線衝突と捕食襲撃それぞれ 1 羽ずつ計 6 羽

平成 18 年度：電線衝突と栄養不良が 1 羽、不明衝突と捕食襲撃が 1 羽、他事故とフェンス等が 1 羽

平成 19 年度：不明と捕食襲撃が 1 羽、他事故と捕食襲撃が 1 羽、不明衝突と栄養不良が 1 羽

平成 20 年度：他事故と栄養不良が 1 羽、電線衝突と他事故が 1 羽、電線衝突と交通事故が 1 羽

平成 21 年度：スラリーと捕食襲撃が 1 羽、他事故と栄養不良が 1 羽、電線衝突と同種闘争が 1 羽

平成 22 年度：フェンス等と栄養不良、不明衝突と栄養不良、交通事故と栄養不良、栄養不良と列車事故、電線衝突と栄養不良、不明衝突と疾病それぞれ 1 羽ずつ計 6 羽

平成 23 年度：フェンス等と栄養不良が 1 羽

平成 24 年度：フェンス等と疾病が 1 羽

平成 25 年度：電線衝突と同種闘争が 1 羽、栄養不良と疾病が 2 羽、他事故と疾病が 1 羽、電線衝突と疾病が 2 羽、不明衝突とその他が 1 羽、不明衝突と栄養不良が 1 羽、計 8 羽

平成 26 年度：電線衝突と栄養不良が 1 羽、同種闘争と電線衝突が 2 羽、他事故と栄養不良が 1 羽

平成 27 年度：電線衝突と栄養不良が 2 羽、交通事故と同種闘争が 1 羽、同種闘争と電線衝突が 1 羽

平成 29 年度：交通事故と中毒が 2 羽、不明衝突と栄養不良・衰弱が 1 羽、同種闘争と電線衝突が 1 羽

平成 30 年度：不明衝突と栄養不良が 1 羽、フェンス等と栄養不良が 1 羽、電線衝突と捕食・襲撃が 1 羽、その他と栄養不良が 1 羽、フェンス等とその他が 1 羽、列車事故と疾病が 1 羽

※ 3 「他事故」としては、ゴム栓などが嘴にはまってしまふ事故や側溝などへの転落事故がある。

※ 4 「フェンス等」としては、有刺鉄線、電気柵、シカ除けネット、シカ除け柵などの絡まりがある。

※ 5 「スラリー等」とは、酪農業で設置している牛のふん尿貯めのタンクにタンチョウが誤って落ちてしまったものである。

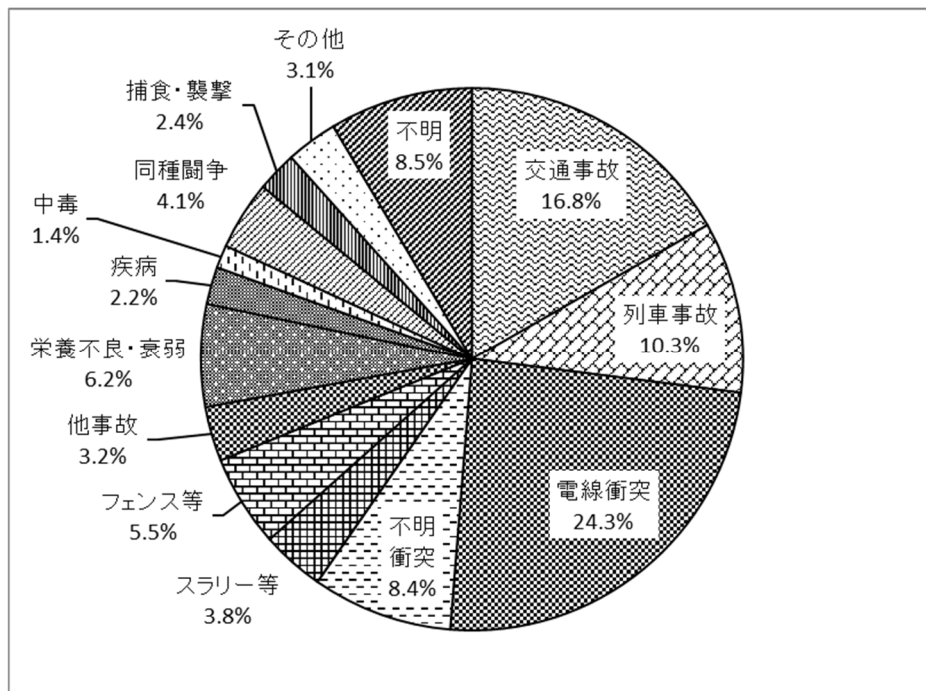


図3 タンチョウ收容原因別割合 (H12-30年度)

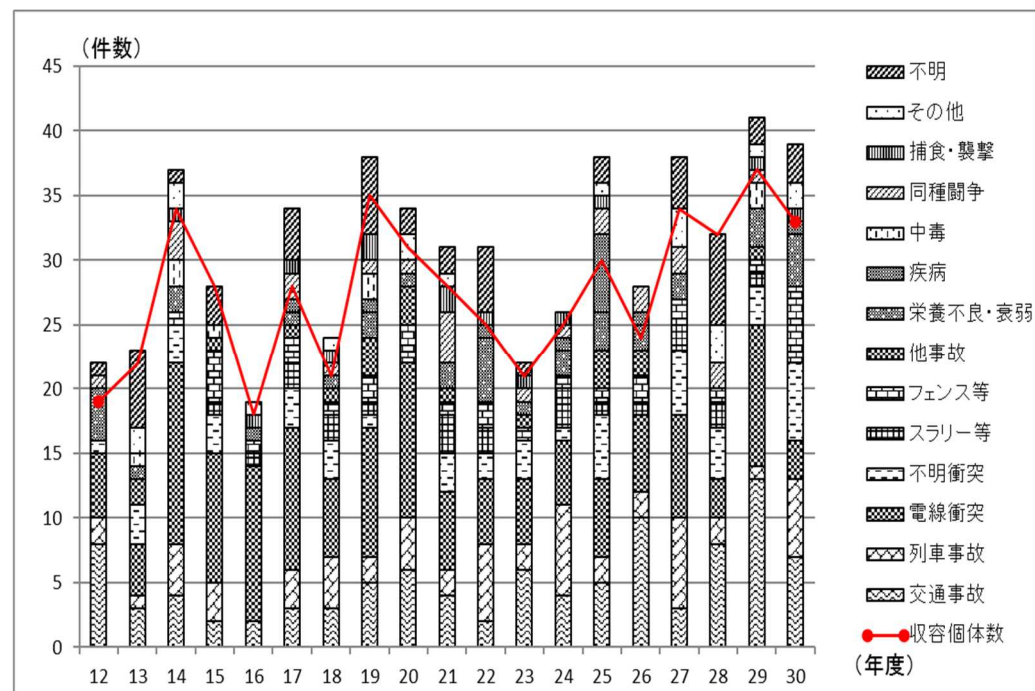


図4 タンチョウ年度別收容件数 (H12-30年度) ※

※各原因別の收容件数の合計が收容个体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容个体があるため。